

**児童・生徒の現状・課題**

・本校では、一昨年度より個を大切に、主体的に学びに向かうための授業実践している。児童が学習課題や過程・学習形態を選択したり、学びの手引きや自由進度学習に取り組んだりする中で主体的に学習に取り組もうとする素地が養われてきた。一方で、困難や失敗に遭遇した際に、粘り強く向き合うことに課題を感じている。



**学び続ける力を育むための重点目標**

○自分との関わり(前向きに学ぶ・自分の考えをもつ・やり遂げる)と他者との関わり(協働する・相談する)において育まれる能力を「大蔵の自己効力感」と設定して重点目標とする。



**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(6月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	86.2	90.0	84.0
②間違えたり、失敗したりした時、前向きにとらえ、次に生かそうとしている。	83.7	90.0	81.1

**教員調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(6月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	86.7	90.0	96.8
②児童・生徒の興味・関心を高める工夫をしたり、児童・生徒が取り組んだことに対して、受容・称賛・励まし等の価値づけを行ったりしている。	93.3	100	100

**具体的な手だて①**

どの教科においても、学習のゴールや単元で身につけたい力を単元の初めに示し見通しをもたせる。  
また、学びの手引きや自由進度学習などを活用して児童が学習課題や学習過程を選択できる場面を設定する。(挑戦・課題調整力)

**具体的な手だて②**

協働学習において、教師は児童と児童を繋げていく言葉かけを意図的におこなう。振り返りの場面では、教師による問いかけによる気づきと内省を促し、児童が互いに学びあいながら成長できる場面を設定する。(協働・相談)

**具体的な手だて③**

見通す・選択する場面においては、児童の決定や価値観を尊重して、承認と価値づけを最優先する意図的な声かけをおこなう。どのような取り組みに対しても否定をせず、良い所を見つけて励ますことで児童が安心して学習に取り組める環境を作り出す。(粘り強さ・やり遂げる・ポジティブ)



**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

・日常的に相互授業観察(ふらっとイン)をおこなっている。放課後にミニ協議会(フラットーク)を設定し意見を交換することで教員全体の授業力向上を目指す。  
・授業改革につながる提案や専門性の高い教員の実践紹介などを紹介する研修の時間(THE タチバナシ)を設けている。

**総括(6月)**

一昨年度から個を大切に、主体的に学びに向かうための研究実践から始まった。昨年度には学びの手引きの実践(児童が見通しをもって学習に向かうための授業形態)などに取り組んできたことから、児童の意識や教員の意識は確実に変化していることが感じられる。本年度は、今までの研究実践を更に積み重ねていくことで「大蔵の自己効力感」の育成という重点目標に迫っていく。10年後の大蔵っ子が誰からも愛され、地域や社会で活躍できる人材になることを願い、授業改革に腰を据えて取り組む。

**総括(1月)**本年度は、自分との関わり(前向きに学ぶ・やり遂げる)と他者との関わり(協働・相談)を軸とした「大蔵の自己効力感」の育成を重点目標に掲げ、授業改革に取り組んできた。教員調査の結果、学び方を選択する場面の設定は96.8%(目標90.0%)、児童への受容・称賛等の価値づけは100%(目標100%)に達しており、教員側の意識・行動は大きく変容し、意図的な働きかけが着実に日常化しているといえる。また、日常的な相互授業観察(ふらっとイン)は1月までに200本を超え、実践紹介(THE タチバナシ)を通じて、校内の研究体制が活性化し授業力の向上に繋がっていると考えられる。一方で、児童生徒調査の結果、以下の項目で昨年度および目標値を下回る結果となった。教員の意識・行動改革によって「主体的に取り組もうとする素地」は養われつつあるが、困難や失敗に直面した際の「粘り強さ」については依然として大きな課題が残っているといえる。教員側の実践(具体的な手だて①~③)が、児童自身の「大蔵の自己効力感」として結実するまでには、まだ時間を要する状況であるとされる。10年後の社会で活躍できる人材の育成を見据え、一過性の取り組みに終わらせず、児童が「自分で決めたことをやり遂げた」という成功体験を積み重ねられるよう、粘り強く支援を継続していく。